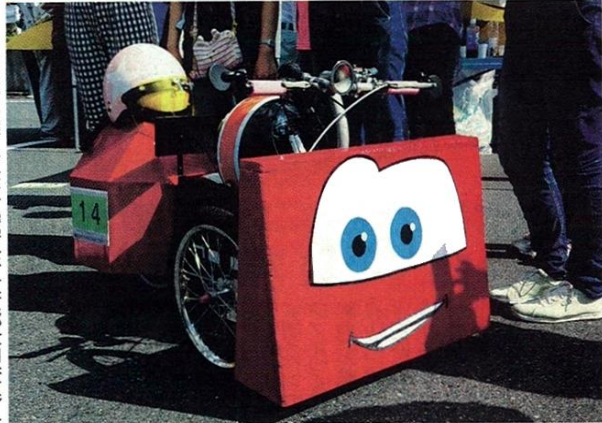


都市大エコ1チャレンジカップ

競技は、各学校が製作した車両を持ち込み、1周5000mのコースを10周した時のタイムを競うというもの。1チームにつき2〜4人のドライバーがあり、周回ごとにドライバーを交代するため、車両の速さだけでなくチームワークも重要となる。参戦車両に

中高・18校が参加

東京都大学(三木千壽学長、東京都世田谷区)は、このほど、東京自動車学校(東京都多摩市)で「都市大エコ1チャレンジカップ2014」を開催した。中学・高校生による手づくり電気自動車(EV)の走行タイムを競う大会で、今年で4度目の開催となった。首都圏を中心に18校の20チームが参戦し、工夫を凝らした車両でレースを駆けた。(長谷部 博史)



中高生独自のユニークな車両

ものづくりの楽しさ肌で

は実行委員会が事前に送付した12枚、3分以下のパッチリーを2個搭載する。車両製作を通してものづくりの楽しさや環境・エネルギー問題の

工夫いっぱい手づくりEV

企画解説



優勝した波崎高校チーム

認識、創造性に富む人材を育てることを目的とする。大会実行委員会の白木尚人(同大学の工学部機械工学科教授)は「中高生を対象に、ものづくりの楽しさや自動車業界への興味を高めるために大会を開催した。夏休みの期間を利用して製作したクルマを大会で走らせて思い出をつくらせてもらいたい」と功し、12分48秒のタイムを記録。前回タイムの13分57秒より1分9秒短縮し、2度目の優勝となった。



熱心に他校の車両を研究する姿



炎天下の中、白熱するレース

■この記事・写真等は日刊自動車新聞社の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会